

スポーツによるグローバル人材の育成に関する研究（第2報）

—2016年コスタリカ共和国における野球指導—

A Study Regarding the Fostering of Global Human Resources through Sports
(Report No.2): Baseball Coaching in the Republic of Costa Rica in 2016

宮崎 光次^{※1}

キーワード： 野球, コーチング, コスタリカ, グローバル人材, JICA

要約

2016年2月4日から3月4日までの1ヶ月間、本学野球部員9名がコスタリカ共和国(以下、コスタリカとする)に派遣されボランティア活動を行った。

小学校における体育授業、少年野球チームでの指導、体育教員養成大学での野球指導、および、コスタリカ代表チームとの試合を通して、小学生から大人まで延べ1,222名に対して野球指導を行い、技術と共に礼儀や感謝の気持ちも持つことなどを伝えた。

参加学生へのインタビュー、サントドミンゴ野球協会へのアンケート調査を実施し、活動の成果、および、課題を明らかにした。

今回の活動を通して、コスタリカの文化、風習に触れ、大いに刺激を受けた学生の異文化理解は多に進んだものと考えられる。さらに、この活動は、部活動をはじめ、授業、大学生活でこれまでに学んだことを、コスタリカの人々のために活かす絶好の機会、「学而事人(がくじじじん)」（学んで人に仕える）の実践であり、グローバル人材育成のための第一歩と言える。

1. はじめに

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定をうけ、日本国政府は、2014年から2020年までの7年間で、開発途上国をはじめとする100以上の国や地域において、1,000万人以上を対象としてスポーツの価値とオリンピック・ムーブメントを広げていく取り組みを行っている。この国際貢献事業がSport for Tomorrowである。

「スポーツによるグローバル人材の育成に関する研究(第1報) —コスタリカ共和国における野球指導—」¹⁾で伝えた通り、桜美林大学は、その一環として、独立行政法人国際協

※1 MIYAZAKI, Mitsuji 桜美林大学総合科学系

力機構（通称JICA、以下JICAとする）と連携ボランティア派遣事業実施で合意し、2016年から2020年の5年間、毎年1ヶ月程度、野球部員10～15名をコスタリカに派遣し、野球の普及・振興に貢献するとともに、ボランティア経験を通じてグローバル人材の育成を図ることとなった。

本研究の目的は、第1回の活動として、2016年2月から1ヶ月間、コスタリカ国内で行った活動内容について紹介するとともに、その成果、今後の課題を考察することである。

2. コスタリカと野球

派遣された9名の学生は、2016年2月4日羽田空港を出発、ロサンゼルス経由で、同日コスタリカの首都サンホセに到着した。

コスタリカは、中央アメリカ南部に位置する共和制国家である。北にニカラグア、南東にパナマと国境を接しており、南は太平洋に、北はカリブ海に面している。面積は51,100平方キロメートル(九州と四国を合わせた面積)、人口は約476万人、主要産業は農業（コーヒー、バナナ、パイナップル等）、製造業（医療品）、観光業である。

最も盛んなスポーツは国技でもあるサッカーで、FIFAランキング18位(日本56位、2016年9月15日現在)であり、その人気は絶大である。これに対し、野球は競技人口700～1000人、競技レベルも中米7カ国中5～6位であり、マイナースポーツと言える。

そんな中、日本に対しボランティア派遣要請が来たのには理由がある。近隣にはベースボール大国・アメリカ合衆国、キューバなどがあるが、遠く離れた日本に援助を求めたのは、技術だけでなく、野球を通して礼儀や感謝の気持ちを持つことなど、日本特有の精神性、道徳観などを身につけさせ、青少年の健全な育成に繋げたいとの理由からである。

1974年よりJICA青年海外協力隊員が野球指導支援に係っており(2000年から2008年の8年間は一時中止)、一部地域では野球文化が強く定着している。しかし、指導者不足は否めず、特に、チームスポーツに欠かせない協調性や集団行動といったものを指導するために、今回、本学野球部員がチームで派遣されることとなった。

3. コスタリカでの活動

コスタリカに到着した学生は、3月2日にコスタリカを出国するまでの約1ヶ月間、JICA青年海外協力隊・野球ボランティア隊員(赴任期間2年)の金子真輝氏はじめJICA現地スタッフ、サントドミンゴ野球協会の方々のサポートを受けながら活動を行った。

今回実施したボランティア活動(野球指導)の概要は、表1の通りである。小学校における体育授業(野球)、野球教室、体育教員養成大学での野球指導、および、代表チームとの試合を通して、小学生から大人まで延べ1,222名の方々に対して野球指導を行い、技術と共に礼儀や感謝の気持ちも持つことなどを伝えた。

表1 ボランティア活動の概要

期待される成果：

- 1) 野球を通じたコスタリカの青少年の健全な育成
- 2) コスタリカの野球競技力向上
- 3) コスタリカにおける野球競技者の底辺拡大
- 4) 活動を通じた学生の指導能力向上
- 5) 学生の異文化理解の促進、及び、グローバル人材の育成
- 6) スポーツとオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの拡大

活動内容：

- 1) 選手への技術指導
- 2) 選手へのルール、マナー等の指導
(協調性、忍耐力等を身につけ、青少年の心身の健全育成を目指す)
- 3) 普及を目的とした青少年を対象とする野球教室
- 4) 小学校体育における野球授業の導入
- 5) 試合・大会の運営支援(審判、グラウンドキーパー等を含む)
- 6) 指導者への指導(技術、指導法)
- 7) コスタリカ代表チームへの支援
- 8) 体育専攻大学生への指導(技術、指導法)

(1) 小学校授業での野球指導

地方都市サンカルロスのセタトレッセ小学校(6年生24名、5年生25名)、ソナフルカ小学校(3年生35名、4年生19名)における体育の授業を担当した。各々約60分間、野球を題材として授業を展開した(写真1)。

また、サントドミンゴ小学校、ラサバナ小学校、サンフランシスコ小学校など首都圏にある小学校でも同様に、野球を題材とする体育の授業を実施し、17回、合計648名の生徒に指導を行った(写真2)。その際、現地で用意されていた用具に加え、株式会社ファンケル、公益財団法人全日本軟式野球連盟、株式会社アシックスから提供いただいたグローブ、ボールなどを使用、授業終了後には、競技人口拡大のために寄贈した。

授業では、ゲーム的要素を取り入れ、打つ、捕る、投げる、走る、の楽しさを伝えることを中心課題とした。また、ルール、マナーについても部員が率先して順守するよう努めた。授業後には、日本から持参した東京オリンピック・パラリンピックのバッジを配布し、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの拡大にも努めた。



写真1 小学校での体育授業①



写真2 小学校での体育授業②

(2) 少年野球チームでの指導と技能測定

サントドミンゴ野球協会に所属する少年野球チームを対象に1日120分、週2回、3週間の指導を行い、レベルアップを図った。参加者は小学生58名、中学生50名、高校生66名である(写真3)。

小学生には、投げ方・捕り方などの基礎的な練習を重点的に行いながら、ゲーム形式の練習も取り入れ、野球の楽しさを感じてもらい指導を行った。

中学生には、小学生と同様の基礎練習を取り入れながら、技術的な指導を行い、基礎技術を発展させるような指導を行った。

高校生には、競技力向上を重点課題とし、本学で行っているメニューを取り入れながら指導を行った。

いずれの指導の中では、技能の上達と共に、挨拶や道具の整理整頓の大切さ、一所懸命に取り組むチャレンジする大切さを理解させることに力を注いだ。

また、今回から5年間継続的に野球指導を行うことから、その成果を検証するために、コスタリカの子どもたちの形態、運動能力、野球の能力についての測定を行った。対象は、サントドミンゴ野球協会所属チームの子どもたち88名である(写真4、5)。

測定項目は、以下の通り。

- ① 形態：身長、体重
- ② 基礎運動能力：握力、反復横跳び、50m走、上体起こし
- ③ 野球パフォーマンス：球速、遠投、スイングスピード



写真3 少年野球チームでの指導



写真4 反復横跳びの測定風景



写真5 遠投の測定風景

(3) 地方での野球普及活動

地方の町ラクルス（ニカラグア国境の町）で少年野球教室を実施、2日間で57名が参加した。隣国ニカラグアは非常に野球が盛んなため、野球に関する知識もあり、興味を持っている子どもも多い。しかし、首都圏に比べ、経済的に劣る地域であるため、ラクルス野球協会所有のグローブ、バット、ボールなどはあるが、個人の用具を持っている子どもはごく少数であった。

競技人口を増やすためには、このような地方の町にも、積極的に訪れ、野球、スポーツの楽しさを知ってもらうこと、そのためにも用具の確保と指導者の育成が必要であることを痛感した。

(4) 教員を目指す大学生への指導

コスタリカナショナル大学（UNA）において野球指導を2回実施、60名の体育専攻学生が参加した（写真6、7）。

体育教員の養成が十分にできていないコスタリカにおいて、体育教員養成課程を持つ大学で野球の技術、指導法を伝えたことは、未来の体育教員の養成、体育教育の質的向上、および、スポーツ競技人口の増加に繋がるものと考えられる。



写真6 UNAでの野球講義



写真7 UNAでの野球実技

(5) 代表チームとの試合

試合は、4試合行った（写真8）。高い技能を示し、きびきびとプレーし、模範となるようなゲームができるよう努めた。加えて、ウォーミングアップを全員で揃える意義、準備や移動に素早く取り掛かる姿勢、そして、グラウンド整備の重要性や整備方法なども伝えた。

試合結果は以下の通りであり、全勝できなかったことは非常に残念である。

- 桜美林大学○ 6 - 1 ●サントドミンゴ青年選抜（7イニング）
- 桜美林大学● 4 - 6 ○サントドミンゴ社会人選抜（9イニング）
- 桜美林大学○ 11 - 1 ●サンホセ青年選抜（7イニング）
- 桜美林大学○ 3 - 1 ●サントドミンゴ青年選抜（7イニング）



写真8 日本式試合前の挨拶

4. グローバル人材の育成

(1) サントドミンゴ野球協会へのアンケート

今回のボランティア活動の要請先であり、最も多くの時間を共有し、活動を支援してくれたサントドミンゴ野球協会Gabriela会長に対し、帰国後、メールによるアンケートを実施し、活動に対する感想・意見を調査した。

質問事項と回答は以下の通りである（●：質問 >：回答）。なお、原文（スペイン語）を表2に示す。

① 青少年の健全育成について

● 学生は、礼儀、規律を重んじて野球指導を行っていたか？

> 学生たちは、とても熱心につけ、礼儀を重んじた指導をしてきていました。

● 学生は、ルール、マナーを守り行動し、それを子どもたちに指導できていたか？

> ルールを破ることはなく、またマナーもとても良かったと思います。指導して下さった子供や青年に対してもそれを伝えることができていました。

● 学生は、野球の楽しさを伝えられていたか？

> 学生は常にどうしたら子供たちが楽しんでくれるかを考えていて、楽しく試合ができるように取り組んでくれていました。

● 学生は、チャレンジする大切さを伝えられていたか？

> 常に子供たちに対して全力でプレーすること、練習を一所懸命することで多くを学ぶことを強調してくれていました。

● 1ヶ月の活動で、子どもたちの行動（礼儀、マナーなど）に変化は生まれたか？

> 桜美林の学生が来てくれてから、試合や練習での子供たちの様子が改善されたと感じています。

② 野球の競技力向上について

● 体力テスト、野球パフォーマンステストを行ったがどのように感じたか？

> 体力テスト、野球のパフォーマンステストを実施することは意義があることと思

いました。このテストをすることで、子供たちのBefore-afterを知ることができ、指導によってどれだけ伸びたかを確認できる素晴らしいツールだと思います。今度もこのテストを継続していただき、子供たちの伸び率についてデータを取って行きたいです。

- 1ヶ月の活動で子どもたちの野球の競技力は向上したと思うか？
 - リトルリーグの試合をした時に、技術の進歩を見ることが出来ました。ボールをより遠くまで投げられるようになっている選手が何名かいました。
- 1ヶ月の活動で、コーチ（保護者を含む）に変化は生まれたか？
 - 保護者は、より練習に対して積極的に参加するようになり、モチベーションも高まっていると感じられました。またコーチも桜美林の学生に教えていただいた指導法を試すようになってきています。
- ③野球競技者の底辺拡大について
- 1ヶ月の活動で、サントドミンゴ野球協会内に何か変化は起こったか？
 - 練習に参加する子供たちの数が増えました。
- 現地メディアを通じた広報はどのように行われたか？
 - ラジオ・コロンビア（FM98.7）で、1回5分のラジオ番組にて桜美林大学の活動に関する情報発信を6回行ないました。
 - サントドミンゴ野球協会のFACEBOOKのページにて、練習や試合の様子を更新しました。
- 用具を寄贈することは底辺拡大に繋がると考えるがどのような用具を寄贈すれば良いか？
 - 寄贈して頂ければ、子供たちの野球をするモチベーションを高められます。軟球やグローブは学校での野球普及事業に大変役立つと考えています。
- ④活動を通じた学生等の育成
- ホームステイを実施して頂き、非常に良い経験をさせて頂いたが、問題点はあったか？
 - 問題は特になかったです。受入した家族の中にはもっと長い時間を一緒に過ごしたかったとコメントする家族もありました。1回のホームステイは、学校訪問などの予定があるので、2泊3日が適切だと思います。報告会で、学生から提案があったように、活動期間の最初と最後にホームステイをいれ、合計2回実施できるように調整して行きたいと思います。
- ⑤学生等の異文化理解の促進、及び、グローバル人材の育成
- 上記目標のために、ホームステイを実施して頂きましたが、これ以外に何か良い提案はあるか？
 - ホームステイをすることでよい結果が得られると思うので、来年は2回ホームステイを入れることで調整していきたいと考えています。
- ⑥スポーツとオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの拡大

- 2020年東京オリンピック・パラリンピックのバッジを配布したが、東京オリンピック・パラリンピックに関する興味関心は今のところどの程度あるか？
 - コスタリカの選手がオリンピックに出場するので、オリンピック自体に対する関心はあると思いますが、東京オリンピック・パラリンピックへの関心を高めるためには、口コミで伝えていくなど出来ると思います。東京オリンピックで野球がオリンピック競技として認められることが重要であると考えます。
- ⑦その他
 - チーム派遣は有効であったか？1名での指導とどのような点で違いがあるか？
 - 指導者の人数が増えるので、多くの子どもたちを同じタイミングで教えられること、またポジションごとの指導が可能になることが大きいと考えます。
 - 今回のボランティア活動での問題点があれば教え頂きたい？
 - 特にありません。
 - 来年以降、コスタリカに行く前に、是非、学生に準備させて欲しいということはあるか？
 - 言葉を知ることでコミュニケーション上の壁を取り払うことが出来ると思うので、来年参加する学生のみなさんには、スペイン語の知識をつけて来てもらえると、もっと経験やお互いの文化についての交流が図れると思います。

表2 アンケートの質問事項と回答（スペイン語）

- ①Crecimiento cognitivo de los niños y jóvenes
- Los voluntarios entrenaron a los niños y jóvenes de Costa Rica con disciplina y cortesía?
 - R/ Fue una de las mejores virtudes aprendidas, la disciplina y dedicación hacia los entrenamientos, un 100 % de disciplina y cortesía.
 - Los voluntarios se portaron bien respetando las reglas y los buenos modales? Y también ellos mismos demostraron eso a los niños y jóvenes como modelos?
 - R/ En ningún momento faltaron a las reglas del respeto y los buenos modales, Le transmitieron ese buen comportamiento a los niños y jóvenes.
 - Los voluntarios pudieron demostrar la diversión del béisbol a los niños?
 - R/ Siempre procuraron hacer divertida las clínicas y además realizaron juegos que enseñaban el béisbol de forma alegre.
 - Los voluntarios pudieron demostrar la importancia de los desafíos a los niños?
 - En cada práctica instaban a los jugadores a realizar los ejercicios, obteniendo el máximo esfuerzo para lograrlo de parte de ellos.
 - Dentro de 1 mes de estadía de los voluntarios, se nota el desarrollo o diferencia entre las actitud de los niños?

- R/ Sí. Hay variación en el comportamiento y desempeño en el juego y practicas después de un mes de presencia de los Voluntarios de la U. de Oberlin.

②Mejoramiento de las técnicas del béisbol

- Qué piensa de la evaluación del manejo corporal y la actuación del béisbol? Queremos seguir haciendo evaluaciones en 5 años y por eso queremos saber qué tipo de entrenamiento va a funcionar para mejorar las técnicas de los niños. Algún comentario sobre eso?

- R/ Me parece que las evaluaciones del manejo corporal y la actuación del béisbol son muy importantes y permiten conocer como inicia el niño como jugador, es una base para medir el desarrollo y el éxito de la aplicación de las técnicas de enseñanza, me parece ideal como inicio del programa y al final del mismo se analizan los resultados de estas evaluaciones obteniendo conclusiones importantes.

- En 1 mes ustedes creen que la capacidad de ejercicios de los niños mejoraron? En caso de responder sí, explique cómo?

- R/ Sí. Lo observamos cuando jugaron partidos de liga menor, su disposición y mejoramiento de la técnica de juego se notó. Algunos chicos superaron la distancia de tiro de la pelota por mucho.

- Después de 1 mes, pudieron ver algún cambio en los entrenadores costarricenses o los padres?

- R/ Una forma de ver el cambio de la actitud de los padres fue la afluencia a las prácticas, se comprometieron y asistieron, están motivados.

Los entrenadores están aplicando la enseñanza adquirida.

③Aumento del número de los niños que juegan el béisbol

- Hubo algún cambio en la Asociación de Béisbol de Santo Domingo en el transcurso del mes. Por ejemplo, ahora vienen más padres o más niños para jugar el béisbol?

- R// Hemos tenido una afluencia mayor en la cantidad de niños que han llegado a a las prácticas.

- Hicieron algún tipo de publicidad. Si hicieron algo, queremos saber específicamente qué hicieron?

- R/ Si se realizó publicidad en medio radial, programa actualidad de Radio Columbia 98.7 FM, 6 participaciones de 5 minutos cada una informando de

actividades relacionadas con la Universidad de Oberlin.

- En redes sociales se dio seguimiento a todas las clínicas y partidos que jugaron, pueden encontrarlo en la página de Facebook de la asociación. <https://www.facebook.com/Asociaci%C3%B3n-de-Beisbol-de-Santo-Domingo-139541836077140/>
 - Pensamos que la donación ayuda a aumentar el número de jugadores y queremos saber qué tipo de donación o que material o implementos van a funcionar mejor para la donación?
 - R/ Efectivamente, podemos motivar a mis niños a jugar béisbol con las donaciones. Son de gran importancia las bolas de gule (Kenko) y guantes para trabajar a nivel escolar.
 - ④ Crecimiento de los cooperantes de Oberlin según las actividades ejecutadas.
 - Hubo algún inconveniente con las familias? Por ejemplo, periodo de estadía, número de voluntarios, etc?
 - R/ No hubo inconvenientes, algunas familias solicitaron más tiempo para poder convivir con los voluntarios. Nosotros valoramos y nos pareció muy bien la estadía de 3 días y 2 noches, con la recomendación de que en un futuro se hiciera en 2 ocasiones, al inicio y al final del periodo del periodo de estadía.
 - ⑤ Promover el entendimiento entre culturas diferentes y la educación general de las personas
 - Para lograr eso, pensamos que es mejor tener familias anfitrionas, pero habrá otras opciones?
 - R/ La propuesta de compartir dos fines de semana con familias anfitrionas, es una idea, puede ser el segundo fin de semana y el último, previa calendarización de actividades.
 - ⑥ Promoción de deportes y movimiento de las Olimpiadas y las Olimpiadas para personas con discapacidad.
 - Regalamos broches de las olimpiadas, pero queremos saber interés en los costarricenses para las Olimpiadas en Tokio 2020?
 - R/ Existe interés porque tenemos atletas en deportes individuales, que participaran.
- Sin embargo podemos motivar con charlas alusivas a los juegos Olímpicos

Tokio 2020 y los Paraolímpicos.

Muy importante que se logre en Tokio 2020 volver a incluir al béisbol como deporte olímpico.

⑦Otros

●Qué opinan sobre la eficiencia de tener voluntarios en grupo. Alguna diferencia con el voluntario individual?

➤ R/ La diferencia es que se puede abarcar muchos niños al mismo tiempo y también trabajar áreas específicas de la enseñanza especializada por posición de juego.

●hubo alguna dificultad, inquietud o problema en el recibimiento de los voluntarios este año, queremos conocer su opinión para corregir o mejorar en el futuro?

➤ R/ No hubo ninguna.

●Queremos conocer su opinión sobre las cosas que los cooperantes deberían haber preparado antes de venir. Por ejemplo, mejor conocimiento del español, mejores técnicas de enseñanza del béisbol. etc?

➤ R/ El conocimiento del Idioma rompe una barrera ya existente en la comunicación, será bueno algún conocimiento mayor del español y sin lugar a dudas realizar secciones de consulta con los jugadores de la generación 2016, para así que puedan compartir su experiencia y transmitir algunos aspectos culturales.

(2) 学生へのインタビュー

コスタリカでの活動を通して、学生は様々な経験をした。その感想のいくつかを紹介する。

- ① 日本にいるときは、将来、金持ちになり大きな家に住むことが目標だった。だが、コスタリカに来てその考えはなくなった。町のあちこちで壊れたバケツを木で叩きながらみんなが楽しそうに歌い踊っている。人間そのものを感じることができた。今の日本は便利になり過ぎていているように思えた。そんな日本人に、決して裕福ではないがコスタリカでは、笑いの絶えない素晴らしい日々が続いていることを伝えたい。
- ② コスタリカでは、言葉も通じない、生活習慣も、野球へ取り組む姿勢も違う。そんな異文化の中で、自ら考え行動したことは人生の大きな糧になった。自らが行動を起こさなければ、現状は何も変わらないということを学んだ。
- ③ 言葉で説明できなくても身振り手振りで伝わると思っていた。しかし、言葉を最低限

話せないと全く伝わらないと感じた。特に子どもは言葉で説明しながらデモンストレーションを見せないと理解してくれないということが分かった。

- ④ コスタリカ人はとてもフレンドリーで、すれ違ふと挨拶をしてくれ、困っていると知らない人でもどうしたと声をかけてくれた。他人を他人と思わず、スペイン語があまり話せない私にすら、いつでも話しかけてくれた。今後、日本で外国人が迷っていたら率先して話しかけたい。
- ⑤ コスタリカ人からスポーツを楽しむこと、アグレッシブにプレーすることを学んだ。また、師範を示すことにより、理解が早まること、絶対的に語学力が必要であることが分かった。
- ⑥ 現地での語学研修は実施する時間がなかったが、現地の方と積極的に話をするにより、少しずつではあるが語学が上達した。しかし、絶対的にスペイン語の能力が足りないので事前に準備していく事が大切であると痛感した。
- ⑦ 2泊のホームステイを経験し、コスタリカの家庭生活に触れることができた。非常に良い経験となった。もっと彼らとコミュニケーションが取れるよう、語学力を向上させるとともに、積極的に行動できる姿勢、チャレンジ精神を鍛えていきたい。

このようにコスタリカでの野球指導、生活を通して、コスタリカの文化、風習に触れ、学生は大いに刺激を受けたようである。

そして、相手のことをもっと知り理解したい、コミュニケーションをもっと上手く取りたい、そのために自分に足りないものは何かを考えたようである。

大学卒業後、大学院にて「海外でのスポーツ普及・発展に関する研究」をしたいと考える学生や東京オリンピック・パラリンピックに出場する選手や応援に来る外国人のアテンドをしたいという学生も現れた。グローバル人材への一歩と言えよう。

5. 今後の課題

サントドミンゴ野球協会へのアンケート、学生へのインタビュー、および、実際の活動を見て様々な課題が明らかになった。その内容および対応策は以下の通りである。2017年の第2回ボランティア活動に向け少しでも改善して行きたいと思う。

- ① 子ども達への野球指導法の向上
 - ・小学校授業での野球指導では、10パターン程度の指導案の作成が必要である。
 - ・ジャインアンツアカデミーを利用し、指導法を習う。
 - ・日本国内において少年野球教室等を実施し、経験値を上げる。
 - ・ホップ・ステップ・ジャイアンツ（スペイン語版）を利用し、野球指導に必要なスペイン語を覚える。
- ② 経験を一過性のものとせず自身の成長に繋げる

- ・日々の活動日誌を各自でつけ、振り返りができるようにする。
 - ・「卒業論文」の作成（参加者3名が活動に関する内容を卒業論文としてまとめた）など学修に繋げる。
- ③ スペイン語能力の向上
- ・スペイン語の授業を履修する。
 - ・スペイン語圏の留学生と会合を持つなどスペイン語を利用する機会を多く設ける。
 - ・インターネット等を利用し、少しでもスペイン語に触れる機会を増やす。
- ④ 応募者の増加
- ・JICAとの提携では、派遣人数が10～15名となっているので、毎年15名を派遣できるようにする。
 - ・募集説明会の開催、および、体験談の紹介を複数回行う。
 - ・派遣条件である英語能力試験（TOEIC）の基準をパスできるよう、早めに準備を開始する。
- ⑤ より多くの人に活動を知ってもらう
- ・野球部内、大学内で活動報告を複数回行う（今回は各1回実施）。
 - ・マスメディアに取り上げてもらうようニュースリリースする。

6. おわりに

スポーツを通じた国際貢献、その活動を通してのグローバル人材の育成。若い時に海外経験を持つとどのようなメリットがあるか。20代前半で海外に出ると、いろいろなことが刺激になり、様々な経験ができる。その中でも特に、語学の上達は大きいのではないか。短い期間でも外国で過ごすことは、コミュニケーションツールとしての言葉がいかに重要かを理解させてくれる。そして、自らが直接話したいと思う気持ちは学修のための大きなモチベーションになるであろう。

また、全く知らなかった世界を見ることは、もっと他の世界も見てみたいというチャレンジ精神にも繋がると考える。さらに、国際的な視野が広げられる。海外から見ると、改めて日本の技術力の高さ、ルール・マナーを堅持する姿勢、チームワークを大切にする協調性などが理解できるのではないか。

そして、異文化の中に入り、試行錯誤しながら、多くの人と時間を過ごすことは、お互いの価値観や考えを大切にしようとする、共生の心を育んでくれる。

本学では「学而事人（がくじじじん）」（学びて人に仕える）の実践を大切にしている。今回のボランティア活動は、部活動をはじめ、授業、大学生活でこれまでに学んだことを、コスタリカの人々のために活かす絶好の機会となった。

更に、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、日本がスポーツ分野において国際貢献を行う必要性がこれまでも増して大きくなっている。その役割の一翼を本学も

担えればと考えている。

引用・参考文献

- 1) 宮崎 光次「スポーツによるグローバル人材の育成に関する研究（第1報）
—コスタリカ共和国における野球指導—」、桜美林論考『自然科学・総合科学研究』、第7号、pp95-112、2016年3月
- 2) 宮崎 光次「スポーツを通じた国際貢献 —コスタリカ共和国における野球指導—」、
教育旅行研究誌 かわら版、第49号、pp 2-3、2016年7月
- 3) 独立行政法人 国際協力機構、「JICA PROFILE」、2014
- 4) 読売ジャイアンツ、「ホップ ステップ ジャイアンツ！（スペイン語版）」、読売ジャイアンツ、2015
- 5) 外務省、「Sport for Tomorrow (SFT)」プログラム概要（主な実施例含む）
http://www.mofa.go.jp/mofaj/p_pd/ep/page22_001221.html、2015
- 6) 外務省、「スポーツ外交強化に関する有識者懇談会」最終報告書、
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000067294.pdf>、2015